

三次元表現による集団討議プロセス可視化ソリューションの可能性

Potential for a visualization solution of group discussion processes by 3D expression

上村晃弘（立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構 補助研究員）
斎藤進也（立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員）
若林宏輔（立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員）
山崎優子（立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員）
サトウタツヤ（立命館大学文学部 教授）
稲葉光行（立命館大学政策科学部 教授）

情報インフラの普及・拡大によって社会的に重要な意志決定の公開が容易になってきた。近年では、行政組織などがインターネット上に会議の議事録や動画を開示している。ただし、膨大な時間に渡る議論の様子が、分析などが行われなままの状態インターネット上に存在しているものもある。ただ公開されているだけでは、これらは議論の透明性を担保していることのアピールを越えていない。すなわち、これらの情報開示が新たな価値発掘・創造へと繋がっていない。今回は、インターネット上に公開されている経済産業省資源エネルギー庁基本政策分科会の議事録を有効利用するために、テキストマイニングと三次元情報可視化ビューア（KACHINA Cube System）を用いた手法開発とその情報利用の可能性探索についての活動を報告する。

（「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」方法論チーム）